

中川根ふる里通信

= 第11号 =

編集・発行・モアラブ中川根
 連絡先 〒429-00
 静岡県榛原郡中川根町上長尾
 中川根町役場 990
 ふる里通信係 総務課
 郵便振替口座(名古屋)7-91556



未来に残そう豊かな流れ

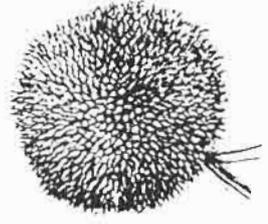
鵜山七曲り

今は無き
 うさぎ島 東海パルプ発電水路も見えて
 写真提供 町議会事務局



母校は今

田野口小学校



写真上 統合前の田野口小校舎 教員住宅 气象台
下 今秋の萩門

私達の母校田野口小学校は、明治七年四月創立、昭和四十一年三月に中川根町の小学校の統廃合の方針に従い閉校。九十二年余の学校史を閉じました。私は昭和二十年四月入学いたしました。その校舎は大正十四年三月に移転し新築、その後増改築されたもので、南正面に大井川を望み、空広く、風光明媚な、村中央の高台にありました。大きな石の門柱をくぐると、左に大きな銀杏の木、右の運動場の片隅に、さるすべりの大木、正面玄関に入ると職員室。生徒の雑巾がけのためか床は黒光りかして、とても威厳のある所であつた様に思います。そして左側に三教室、複式学級でしたが、時折、仕切り戸を取り除いては学芸会、又年に一、二回位村の青年達が映画演芸会などもやってくれたものでした。

運動場は、あまり広くはなかつた様でしたが、「陣取り合戦」、「スイライカンジヨ」などという遊びをよくしたものでした。勉強よりも、こういったことを集りみに学校へ行つた様な気がいたします。盆、正月、又冠婚葬祭など折にふれ、先輩、後輩の方々に、お会いする機会もあります。皆様、町内外で、それぞれ御活躍されておられます。特に村を出て、生活の場を求め、自分の進心道を切り開くことは、なかなか大変なことであつたでしょう。私達は村に居て、とかく保守的に終始しがちですが、新しい発想、又開拓するといふ心意気が必要だろうと思う昨今であります。

母校は今——。

学校敷は、区民の集会場が建設され、運動場は、ゲートボール場、子供達の球技の練習場となつております。小学生徒は、高郷地区に在る中央小学校に通学いたしております。

ふる里は今——。

秋も深まり、畑には、その花が真っさかり、里いもの大きな葉っぱには、水玉が光っています。山の小道には、山萩が、淡いピンクの小花を、しだれ咲かせています。

ふる里出身の皆様、お元気で御活躍されることを祈ります。

昭和二十六年度卒業
鈴木中心夫





学校跡地に建設された区集会所

田之口小学校 歴史

年 記 録

年	明治7	14	19	23	25	26	大正10	15	昭和6	8	31	37	39	40	41
四月、堀之内村大連合田之口支校と開校。旭佐寺内におく、(静岡県第二大学区十六箇中学区百箇小)支校発令がでたが、支校と兼する通学困難のため、再び支校を原沢、鈴不宅においたが、児童数増加により、美金と募り校舎新築、木造平屋建間口五間、奥行二間三尺(現在農協田野口出張所の場所)小学校令、尋常小学校四年、高等小学校四年となる。東京に電燈がつく。															
二月、田之口小、徳山村堀之内山の分校となる。志太郡徳山村田之口尋常小学校と併し独立校となる。教員一名、児童三七人。君が代の国歌にきまる。															
大井川に、プロペラ船運行開始。上り二月、下り八月。校舎も現在地、田之口三ヶ番地に移転新築する。															
十二月、大井川鉄道千頭まで開通する。ラジオ学校放送が始まる。															
徳山村立田之口小学校となる。同平町村合併により、中川根村立と改称。															
町別施行により、中川根町立田之口小学校と改められ、山にこ元塚台、気象庁認可。															
全国学生顕微鏡コンクール、文部大臣賞授賞。															
田之口小、上長尾小と合併、中央小学校と改める。															
以上、中央小百年のあゆみ、開校百年記念誌あり、田之口小学校関係記事抜粋。															
資料不足をお詫びします。(編集者)															
旭佐寺は現在、鈴木長生さん宅上側にあり、たといわれ、寺井戸と言う屋号があるとの事です。															
(正字真中央、第屋根附近)															
田之口小学校は、古くは堀之内小学校第一分校所、戦後、原山小学校第一分校として、始終業式卒業式は本校にて行われ、第二分校所は吉町町内校である。															

旭佐寺は現在、鈴木長生さん宅上側にあり、たといわれ、寺井戸と言う屋号があるとの事です。

(正字真中央、第屋根附近)

田之口小学校は、古くは堀之内小学校第一分校所、戦後、原山小学校第一分校として、始終業式卒業式は本校にて行われ、第二分校所は吉町町内校である。



写真上及左上は昭和10年代の田野口の様子
写真提供 田該会事務局
写真右下 津島神社裏の本杉

南赤石林道周辺整備事業着手

都市の発展は、緑を次々と食い荒し、森といわれるものは、街の中ではほとんど見かけなくなった。

そんな中で、近年森林浴という言葉に象徴されるように山間地の森林レクリエーションの価値は高まる一方であり、自然保護、自然回帰志向やアウトドアレクリエーション志向が急成長し、失われたアメニティを求めて都市住民が、こぞって山間地に訪れ始めている。

そんな中で、奥大井県立自然公園内の、山犬段が静岡の自然100選に選ばれ、この付近のブナ原生林や、大札山のアカヤシオをはじめ、四季おりおりの変化を楽しむことのできる豊かな自然を有し、動植物の宝庫でもある南赤石林道周辺を県内外の人達が多数訪れるようになった。

そこで今後、遠方からの利用者や自然をゆっくりと味わってもらうための拠点となる宿泊施設が必要となっている。

そこで、自然回帰の場、アウトドアレクリエーションの場、自然観察の場を提供し、森林のもつ多様な環境保全機能や森林と人との関わりの歴史や文化に対する理解を深め、町の重要産業である消費需用の伸び悩む茶業や低迷する林業の活性化を図り、地域振興へと結びつぐべき道徳ていく。

中川根町産業経済課

宿泊施設 の 概 要

宿泊人数 32名

洋室4室 和室4室

木造2階建組工法 656、84㎡

ホールには、地元産スギの長大径材の通し柱を使用

1階が一般利用者の共用スペース、2階は宿泊者のためのゾーン
建物は、周囲の景観にとけ込むよう山並みになっている

場 所

中川根町上長尾 国道362号分岐点より6km 奥大

井県立自然公園入口に当たる尾呂久保地区

周辺施設

63年度より逐次整備（フィールドアスレチック、テニスコート、遊歩道、野鳥の森、自然広場等）

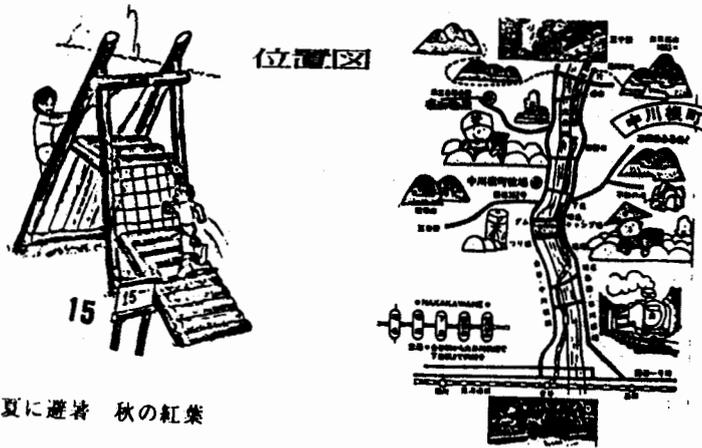
管理運営

町よりの委託により尾呂久保地区の人たちがあたります。

宿泊施設 来春5月オープン



フィールドアスレチック
子供さんと一緒に



春の新緑 夏に避暑 秋の紅葉

ご家族でご利用下さい

渡辺恭一さん 杉・松林農林水産大臣賞に輝く (高 郷)

現地審査者 伊藤忠夫先生 静岡大学教授

林業生産が停滞し、間伐手遅れ林が多くなっているうとうしい林業情勢の中で、渡辺氏の26年生、スギヒノキ肥培林が第25回全国林地肥培コンクール農林水産大臣賞に輝いたことは、一じんの涼風が吹き渡ったような感じてあります。

受賞分林は、中川根町上長尾字中尾にあります。中川根町にはこれまで、昭和49年度天皇杯受賞分林、文沢の神下る寿夫氏をはじめ、農林大臣、林野庁長官賞など多くの受賞分林があります。また、これらの分林は町内でも林業依存度の高い地域であります。これに対して上長尾地区は川根茶の中心産地で、茶業経営が農業の90%を占める土地柄となっています。このためお茶の生産技術は一流ですが、山林経営に対する意欲は低調で、林業技術の蓄積度も少ない。この様な状況の中で、渡辺氏が付加価値の高い、高品質材生産を目標に、林木一生を対象とした肥培育林技術に早くからとり組まれ、立派な受賞林を育てられたことは、敬服に値します。地域林業の振興にとっても大きな意義があると考えられます。



- ◎ 自然条件は、中津川上流、所有山林面積5.63ha、その内出品林分は1.49haのスギ(80%)ヒノキ(20%)林、標高450m、傾斜度20°、土壌は石礫を含み、表層の透水性は良いが、有効土層は30~60cmと浅く、土壌条件はスギの生育に良好とはいえない。
- ◎ 肥培育林技術と生育状態は、スギ・ヒノキとも昭和37年4月に植栽された26年生、苗木は、母樹林より、スギ2年生、ヒノキ3年生の45cmを4000本植栽、1~5年は下刈り、5年に枝打ち施肥、9年に枝打ち、除伐施肥、14年に枝打ち間伐施肥、18年枝打ち間伐施肥、24年間伐施肥により、現在、樹高スギ16.5m、ヒノキ14.5mに生長、肥培効果が顕著に表われている。
- ◎ 肥培林経営については上長尾地区での枝打ちが行われたのは、ここ30年育林技術の低い地域で、渡辺氏は、早くから、良質材生産に取り組まれた、高品質、高蓄積の木材生産を目標に、育林、肥培技術を合理的に組み合わせて、集約的な、施策を行っている。

小規模林家の場合、林業経営に対する意欲は一般的に低調といわれています。しかし、自家労力により集約で、有利な林業を展開できることも可能であることが、渡辺氏の経営からうかがうことができます。もちろん、これが一般化されるためには、多くの条件が克服されなければなりません。渡辺氏のコンクール受賞までには、本人はもとより、地元の志太榎原農林事務所や中川根町森林組合などの指導をあずかったものと思われ、これを機会に一層の協力により、地域林業の活性化にあたりたいと考えています。

— 伊藤先生 調査書より —



上長尾地区全景 対岸より遠望



島田警察署上長尾巡查駐在所

岩上雅人さん

この春の人事移動で上長尾駐在所へ赴任されたおまわりさんは「何と、徳山で生れた方でした。現在岩上という名字は徳山にありませんから、何故ですか?とお聞きしますと、お父様も警察官でいらって、岩上喬一さんと言われ、徳山駐在所に昭和二十八年前後赴任されて来た時に生れたのが雅人さんと言う事です。岩上さんは当時の事は赤ちゃんだったので覚えておりませんが、お兄さんはさゆり幼稚園へ通園していたそうです。それにしても親子二代、中川根の治安にあたって下さる事に感謝しながら、中川根の印象などを伺ってみました。

岩上さんは実家は静岡市、今まで市街地勤務が多く、山間部への赴任は初めて、美人の奥さんと、二人の子供さんの四人家族です。中川根の印象は、まず、人間がおおらかである事、とても良い事だと言われます。自然環境に恵まれている事も、おおらかで人情があることにつながっているように思われるそうです。子供が子供らしい姿をされている事、小中学生はもちろん、高校生も素直で素朴で感じがよく、男子生徒が「おはよう」と挨拶を交して行くのに感心したとの事で、社会へ出てからも失ってほしくないとおっしゃいます。一番気になったのは交通事故が多い事、国道が長く観光通りめけの車も多く、町内者の事故ばかりでは無いですが、歩行者も気を付けて身の安全を守らなければいけません。との事でした。又、飲酒については、都会の様にめいじも無い、他に娯楽施設も無いので、モラルを守って、交流の場にはたらきたいのではと申されました。(飲酒運転は絶対禁上長尾地区は学校も役場も、商店もあり、交通量も多く、とても過疎地には見えなけれとも、鉄道が何故通らなかつたのかな?と不思議そうでした。駅まで遠い事を不便に感じている、その他は便利な所だそうです。まわりの人達もあたにかくて親切ですが、地元の方々と、なれあいにたらないで、善悪のけじめをしっかりとる事、地域の治安を保つ事が任務である、とおっしゃいました。そして、やがて転勤してからも気軽に遊びに来れるような所に

思いえるな、この土地は、とおっしゃいました。



かわいい子供さんといいの岩上さん。

一人住らしの 高齢者の方に 給食サービス始めました

中川根町は過疎進行中、高齢化社会をまき取りなるといって、いかに暗いイメージですか。高齢者と言っても、農業をやっている方は、未だ現職として働いている方もありますし、趣味や老人クラブ活動にはり切っている方も多く、全国(郡会)的お年寄り事情が違う様です。又三世代同居家庭がかなりの戸数にのぼっている為、地区によっては、一人住らしのお年寄りは無い地区もあります。徳山地区、高郷地区が町内でも多い地区にあたります。

一昨年から町の社会福祉課が、一人住らしのお年寄りがより健康な生活とほんの一時食事の仕たくから解放される為、週一回(昼食)の給食サービスを始めました。町の学校給食センターで、小中学生と同じメニューが、給食サービス用にもつくられます。それを現在実施している地区のボランティアグループが、一人前の保温弁当につめ込み、配達し、やがて食事が終わった頃、回収して、食器を洗う作業をします。

毎日の生活の中で、時には食事を作るのがめんどうになり、又昼食は一人で残りの残りで済ませます、などと考をがちですが、一人で一人住らしの方は、大変だと思えます。それと家から外へ出なければ、話す事がお来ません。から、気分の悪い時など、困ります。そんな時、声をかけてやる事も健康な老後を得るのには、何の意も、社会福祉課にはある様です。給食を持って行って、一声、おはあちゃん、元気、と声をかけ、少しお話しして、食事サービスは好評です。現在二十三名、三地区にサービスしています。ボランティア、高郷地区は久野ひろさん、徳山地区は大橋紀子さん、十月から始まって間もない藤川地区は徳島百合江さんを中心に頑張っています。



去八月二十七日、モアラブ川根、水の学習会がありました。県内の高校の地理の先生方がグループを作って大井川の研究をなさっておられます。専門的なお話を伺うことができてよかったです。その事と更新期を真近に控えた川口発電所・塩郷ダム水利権の件、昨今の大井川の様子を特集大井川（第九号）続編としてお届けします。

大井川今年もきれいな川（水質）のベスト5に

ここ数年、大井川が全国河川水質検査（河川あるのか？）で、五本の指に入っておりますが、今年も第五位となりました。安倍川も第三位で大河美川の静岡県は昇が高いと思えます。赤石山系が大量の水を育てる事、上中流部に工場があまり無い事、同部に人口が少ない事など、水質保全に好条件な事もあります。大井川の水が同部で発電のみに利用され、川を流れる事、専ら水質を通過している事も、一因と言えるかも知れません。発電機で攪拌された水は濁り元の水にはもたらぬと言われます。しかも七回以上も発電機を経るのです。BODなど水質基準には合格だったのでしよう。ともあれ、あの四百十川よりも水質は大井川が上たという自覚を持って河川美化、川を愛する事が、私達地元民の課題だと思えます。



昭和4~50年代の大井川の姿は

いつの間にか、大井川に水の流れが無くなって、地元の人々も水の流れをあまり気に止めなかった。洪水時のどろ濁りの川のみ恐れ、それ以外は川の存在も忘れ、広い河原はゴミ捨て場と化した。残飯などをあき鳥がむねをなしていた。現在は公共心の向上と共同ゴミ焼却場もあり、河原は見違えるほど美しくなっている。（上記写真、10月初旬撮影、中徳橋、上長尾方面）

特集 大井川 その2

大井川近況

◎5月の水が流れて

塩郷ダム下流に水流が蘇って早半年、大井川鉄道車窓からも、棋道を行く車からも、川の流れを望めます。以前タムゲートから数メートルの水を流す時も、下流地区はサイレンに悩まされた。現在は心配ありません。八月上旬には川根町葛籠でサケが釣れました。大井川にサケが？と驚かされた。塩郷ダム以下が完全に海と結ばれた証です。又鮎の湖上釣り人も大勢見られました。ただ残念な事は、若鮎の活力をもって、塩郷ダムゲートを湖上する事は困難だと言う事です。しかし、今迄跡絶していた生物が意外と短期間に蘇って来るかも知れません。

◎川遊びが出来なかった夏休み

今年の異状気象による里も翻弄しました。まず三月まで暖冬このまま春かと思つたら、雨の日の続き低温だった。茶葉は凍害被害のなかったかわり収穫量は減り、空梅雨、このまま夏かと思つたら七月上旬から雨が続き、梅雨明けとはおぼろかり八月もまだ空の見える日は数日のみ、必ず午後は雨が降った。その結果大井川も増水して濁りっぱなし。特にお盆にはかなりの水量になっていました。ふる里の清流を期待していらした皆様にはお気の毒なものでした。川遊び解禁、元年は雨になつたけれど、地元の子供達にも残念な夏休みとなりました。

◎秋・冬も水が流れてはいい

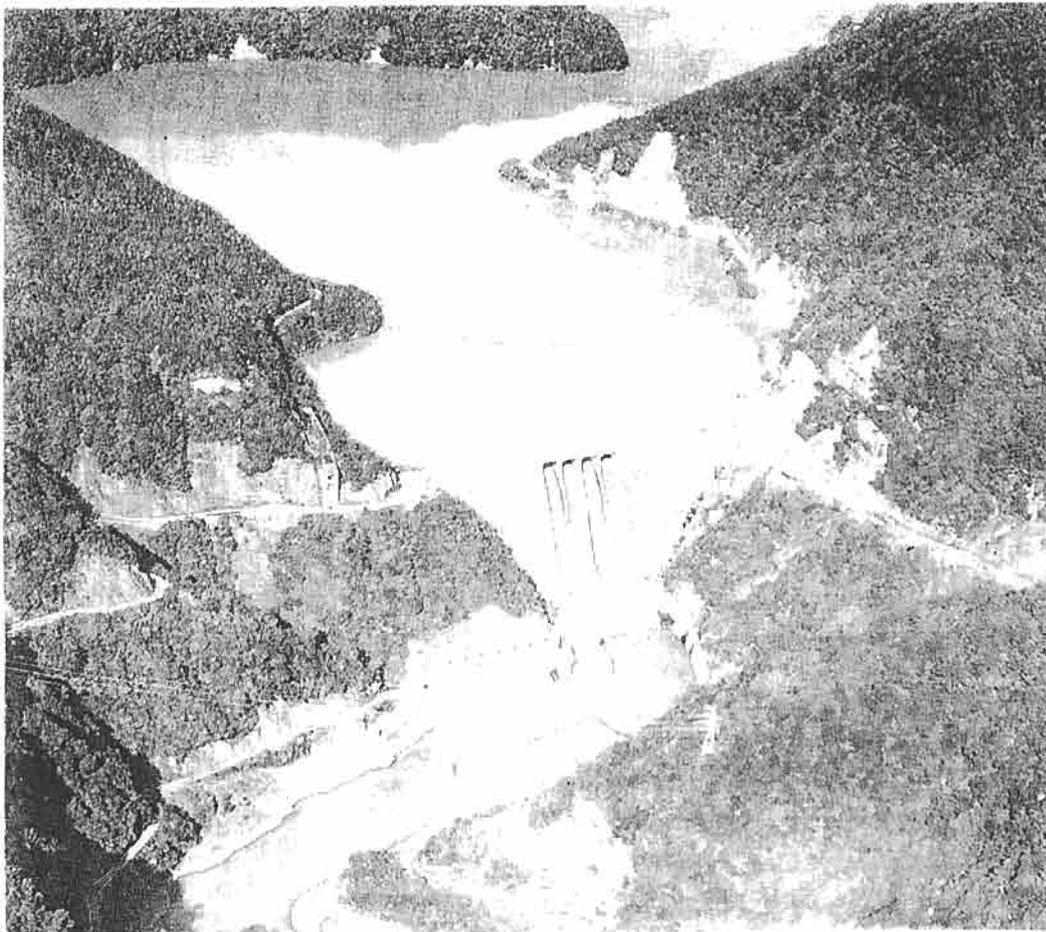
大井川の特徴として、冬場（着水期）と夏場の流量の差が大きいです。事が言えますが、豊か、森林地帯は保水力も大きく、冬も清冷な水を供給してくれます。塩郷ダム下流500mの放流は、試行的にこの半年行われて来たのです。川である条件として、年間を通じて500mの放流をしてきたと願っています。塩郷ダムに貯められた水は、今春からは大井川と又川の水が併せて300m（水利権200m）が流れて来ますが、大部分は本川根町と又川河口から中川根町下流あたりまでの、沢や河内川（大井川にそそぐ支流）から集められた水である事（町内寸又川につぐ支流の椋原川、境川は発電用に導水されている）決して大井川本流の水では無い事を考慮して、いたいて海まで続く流れと是非保つてほしいと願っています。川根町の井戸水枯渇解消、川霧復活、鶴山の七曲りも景観を晴らすと、夢のふくらみます。

が下流部では大井川の水量の見通しがたつわけです。その時々で、条件の異なる気象状況で、ダムが満水となり「いつ放水したから」の良し悪しの実験は、とうてい無理と言うものではあるが、予測のつかない雨量だった。片付けられてはやり切れない。又、六十八年完成予定の長島ダムは、洪水調節の為の目的もあるとの事、期待は大きいのだが、規模は前記ニダムの次と言う事、見事洪水調節の役割りを果たしてくれば、駿河湾の海岸線の砂浜は、ますますやせほそり、意外に短期間に土砂がダムにたまってしまふのでは？と素人は考へるのですが、「長島ダムの耐用年数は？」の質問に、「百年」との答へが帰って来ました。

昭和五十七年八月三日の浸水を最後に、今年まで同地区に浸水はありません。堤防の強化、河川敷の埋立て、水門新設、テトラポットをならべ、水せいを築き、川の流れを防ぐ工事も施されました。又、河床を下げる一番手、砂利採取も順調に行われ、高郷、上長尾地区の前の大井川は河床が下っている様に見えます。その後、大洪水に見舞われ、ないという幸運もありましたが、もし、大洪水になった時、これからは絶対浸水しないという保証もありません。住民は七月ごろから、台風シーズンが終るまで、浸水の恐ろしさにおびえ、大雨の降らないことを、ふたたび浸水被害が出ない事を祈っているのです。

★長島ダム

明治四十年ごろ、大井川の利水計画が立てられました。三本(三地区)の計画の中に「梅地ー井川計画」がありました。その後、幾多の経路を経て、中部電力(株)の井川ダム、奥泉ダムが完成した事は、当初の計画の変形実行と言えましょう。八十年も以前に計画された当地に、今、長島ダムが建設されています。目的は洪水調節、かんがい用水、都市用水、河川の維持用水となっています。昭和六十二年現在、ダム本体は建設中ですが、下流の川口発電所の放流水からの取水は、ダム本体の完成を待たずして、かんがい用水、都市用水としてすでに一部では使われています。何故？と申しますと、長島ダムの水は、中部電力(株)の導水管を通じて、言いかえれば、下流、大井川発電所、久野脇発電所、川口発電所で、発電機を回して流れるのですから、かんがい用水、路上水道施設工事が整えば、速利用出来るわけです。長島ダムの完成の暁には、貯水された水は、目的外の電力に安定供給される様、気がかしてなりません。さらに、目的の河川の維持用水の額は、今年三月末、水利権が更新になった大井川ダム「一五七〇」にもなるのか、大変興味のあるところですが、一部の人は、長島ダムが出来れば、大井川の流れは、ますます「管理されて、河床を流れなくなるだろう」の見方をしています。そうならない事を祈ります。



いままでは、ふる里中川根の四季の自然と、皆様に御紹介してきまわりましたが、奥大井の自然の雄大さは、行外れにすばらしいものです。とりわけ、秋、紅葉の季節、畑薙第一ダムあたりは、ダムの水に生えて、山がもえます。長島ダム水没、大井川鉄道、井川線は、アプト式登山鉄道に交えられます。一度、奥大井をおたすねになつて下さい。井川から畑薙第一ダムまで、バスが運行しています。

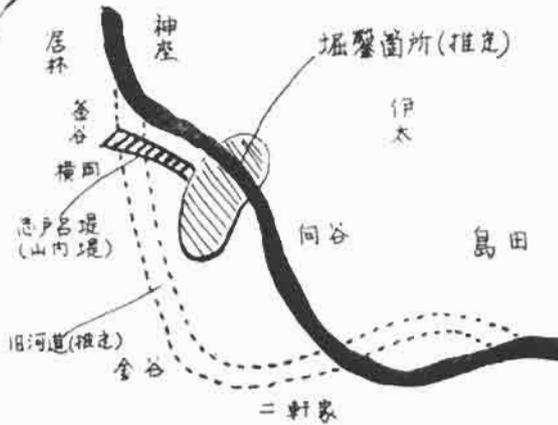
五和

大井川の主流は図の様に、本来まっすぐに金谷町の方に流れ、崖にあたって流れを東に変えて島田の方に流れていた。それを徳川家康が天正十八年(一五九〇)関東に移されたあとに入った中村一茂(駿河府中城主)と山内一豊(掛川城主)が、共同事業として大井川の河道そのものを大幅に変えてしまったのである。

工事は、中村一茂と山内一豊が入封した天正十八年に行われたといわれている。工事の概要を『掛川誌稿』は

山上方五町五十石余の畠あり、是は昔相賀村より続たる駿河方の山也。昔は大井河此山に衝当りて西に折れ、山と横岡の間を流れ、南金谷の河原町を経て、東南島田の方に流れしを、直に北より南に流さん為、此山を切割て遠江方に属せり、是より山と横岡の間に堤を築き、大井河の跡を開鑿して、遂に五ヶ村の田地と成せり

と記しており、牛尾山の開鑿が工事の一番の中心になっていたことがわかる。ここに鉾山堀鑿術が応用されたことは想像できる。



なお『掛川誌稿』ではどうしたわけがこの工事を駿府城主中村一茂一人の功績として記しているが、牛尾山と横岡との間に築かれた堤が横岡堤とか志戸呂堤とよばれ、さらに山内堤という別名もあるのだから、掛川城主山内一豊もいっしょにならざるを得ない工事であったと考えられる。事実、旧河道を開鑿して新しくできた五つの村は、山内一豊領に加えられるのである。

この牛尾山開鑿は、瀬替えによる新田開拓と大井川下流域の洪水防止とかわねた大土木工事であった。

静岡県の歴史より

地名

塩郷附近から川根町抜里あたりまでの大井川曲流を江戸時代から七曲りといいた。(表紙参照)地名北西に長くのびた山脚は、ちうど鶴が首をのびたように見えるので、いつの頃からか、鶴山の七曲りと呼ばれ、早勝地として知られてきた。

明和三年(一七六六)時の代官大草太郎左衛門はこの七曲りに大井川瀬替え工事を行い開田をすることを考えた。地名の村民は、實地見分けた代官所の役人から村の東地区に堀割をつくって、大井川の水を通し七曲りの川岸やもとの川敷に田を作る計画であることを聞いて驚き、さうやく村寄合をして相談した。結果はこの開田計画を中止してもらうように言った。その嘆願書(あらまし)は次のような文面である。

当村内へ大井川御堀り通し遊ばされるおつもりとの御意遊ばされ候に付、惣百姓驚き入り存じ奉り候。御上意御訴訟がまゝ儀恐れ多き御儀と存じ候へ共、惣百姓難儀の段恐れながら左に申し上げ奉り候。

一、川堀り貫き予定地に百姓、寺共三十七軒あり立退き後、転居する土地の無

い事。

一、年貢の納金と翌年の新茶とあてに質物にて金を借りてありますから、現在ある茶畑が無くなると借金を払う手立てが無くなる事。

一、村中へ川が通れば村内東西とへだたり、まぐさ、たきぎ、竹木等を取る場所が無くなら、東側に山林、西側に耕作田畑と別れてしまいつつ、この悪い川瀬替えで、新開地がつくられたとしても、他の村の地充ちであるから、境立てとはつきりさせて、当村の新地にならなくとも、速時新田にはならぬ事。

村民の嘆願によって、この計画は中止となった。

明和八年(一七七一)にふたたび開田についての約束が幕府からきた。この時は代官の強引、年貢、作徳(収穫のうち農民の手に残り半分)家の移転費の補償等の条件をつけての同意であったが、村では、その時も次のような理由をあげておこしをわたりした。

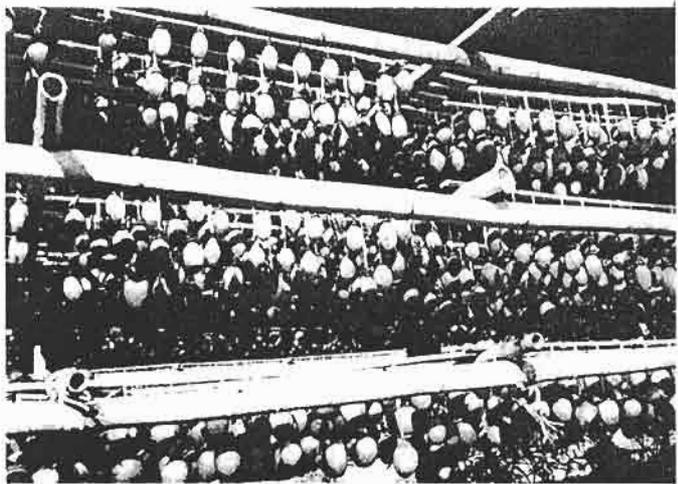
「川堀り貫き予定地にあき地があつて茶、柿などを植え、くし柿などをつくつておるます、い村であります。なおこの場所を深く堀ると大岩がありますから新田には適した土地ではありません。」

新田開拓は幕府の重要施策であったと思われるが、地元住民の意向を無視して強行するようなら、これはいふはかた、このたびも、新田堀割工事は行われなかつた。

太田二郎氏、町史「はれ話」より

ふる里紹介 大井川

瀬替目え 合否



小さい秋見つけた
*米



定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 〒共 100円

皆様の定期購読がこの通信の発行を支えます。

年間4回(季刊誌)の発行を予定しております。誠に恐縮ですが、来年64年夏の号(14号予定)より1部〒共150円にさせていただきます。一層の紙面充実に向けたいと思います。

今回で期間の切れる方に郵便振替用紙を同封致しますから引き続き御購読をお願いします。なお購読期間が切れて半年以上次の購読料が振込まれない場合は自動的に中止とさせていただきます。

お問い合わせ

TEL 0547(56)0015

小沢節子

払込通知票

口座番号 名古屋(7)-81556

加入者名 モアラブ中川根ふる里通信係宛

町内お祭案内



7月14日 平谷流したい(焚)
23日 水川観音堂祭典
30日 徳山地蔵堂



8月9日 智満寺観音堂
15日 徳山浅間神社



9月15日 藤川大井神社・下泉八幡神社祭典



10月2日 地名大井神社・(第1日曜日)
10日 徳山神社
15日 水川神社
16日 瀬戸屋王神社・久野脇八幡神社・田野口津島神社祭典
17日 下長尾八幡神社
20日 上長尾八幡神社
22日 久保尾宮何井日吉神社
24日 久保尾熊野権現
25日 久保尾宮原山及下泉字小巖天満宮 祭典
28日 水川字尾呂久保白羽神社



11月3日 徳町河内文沢八重垣神社祭典
7日 上長尾宮・長野松尾山の幸神社 (北は長野は水川まで)



1月7日 久野脇三津間 佐沢薬師祭典
15日 地名阿弥陀堂
17日 千草山 智満寺大般若
27日 平谷金山神社祭典
29日 下長尾 愛宕地蔵尊 (旧正月)



2月7日 初午各地区お稲荷さま
久保尾宮原山千頭堂 祭典



お説びと訂正

第十号ふる里紹介梅高地区で明治維新のころの戸数を梅島二十六戸と書きまわしたのが二十四戸の誤りでした。お説び申し上げますと共に訂正させていただきます。

天皇陛下の病氣御平癒を願って町産業文化祭が中止となり、町内神社祭典・運動会の打ち上げ花火など自粛されました。静かな秋の日々をむかえております。昭和ないつまでも続いてほしいと祈ります。

町営住宅に一人で住まわれている老人がいます。男性ですが家の回りが整然としていて雑草一つありません。庭には花だんの外一間四方の田んぼがあって、稲を育てています。「何にするの？」と尋ねましたところ「神様によさげなしめなわの葉がほ(い)からつくっているのさ。お米は学校の島にやるだよ」と話してくれました。祭りの終わったある日、通りかかったら田んぼは稲かりがされてしまっていた。この方の出身地は、米どころ東北地方だと言っています。

先日東京大阪の水道事情のテレビ放映がありました。江戸川淀川の上水道取水口が下水道排水出口と隣合っている状況に驚き又川の水のきたなさに驚きました。大井川の水が清い事、導水管の事を考えても、東京その他大都市の皆さんの上水道ダムは、大河上流に作られ、導水する事は出来ないので、とも考えました。川根茶はカルキに弱いようです。大消費地にむけてカルキに強いお茶をつくらう。なとと思ふ。発想はいいことですが、水か煮ければ生命は成り立ちません。都市上水道源水が、より上質な水になる為に、生活排水浄化、森林水草のかん養も、真剣に取り組まなければならぬと思います。

紅筆の季節、いつもですと大札山方面は錦絵となる候ですが、今年はずいぶんおきています。長雨にたたられて木の葉は元気がない。朝夕の冷えは冷たい。かみだ。まのなみじ。が見られないとか、今後はどうなるでしょう。では又、冬の号にて。

印刷 川根印刷所